

# 横浜市感染症発生動向調査報告 7月

## 《今月のトピックス》

- 手足口病の流行警報が発令されました。
- RSウイルス感染症の報告が増加しています。
- 海外渡航歴のある麻しんの報告が2件ありました。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈7月期に報告された全数把握疾患〉

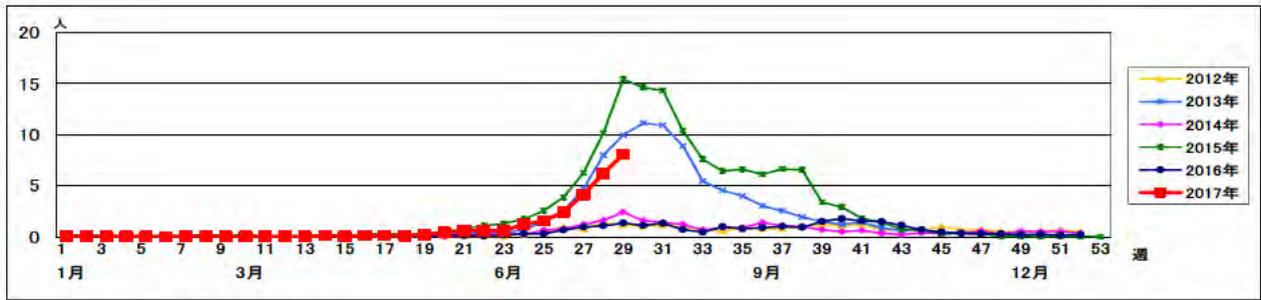
細菌性赤痢	1件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
腸管出血性大腸菌感染症	13件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
ライム病	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	麻しん	2件

- 1 細菌性赤痢: *sonnei*(D群)の報告が1件ありました。フィリピンでの経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が7件、O26の報告が5件、O103の報告が1件ありました。3件は無症状病原体保有者でした。家族内での発生の報告がありました。
- 3 デング熱: 1件の報告があり、タイでの蚊からの感染と推定されています。
- 4 ライム病: 1件の報告があり、国内での昆虫等からの感染と推定されています。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型の報告が3件ありました。感染経路等不明です。
- 6 アメーバ赤痢: 3件の腸管アメーバ症の報告がありました。感染経路は、国内での異性間性的接触、同性間性的接触が1件ずつ、感染経路等不明が1件でした。
- 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 8 クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が2件、その他の報告が1件でした。感染経路は、同性間性的接触が2件、異性間性的接触が1件でした。男性が2件、女性が1件でした。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 12 水痘(入院例に限る): 検査診断例の報告が1件ありました。感染経路・感染地域、ワクチン接種歴は不明でした。
- 13 梅毒: 12件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件)がありました。いずれも国内での感染が推定され、感染経路は、異性間性的接触9件、詳細不明の性的接触が3件でした。男性6件、女性6件でした。
- 14 麻しん: 検査診断例の報告が2件ありました。いずれも感染推定地域はイタリアで、ワクチン接種歴はありませんでした。

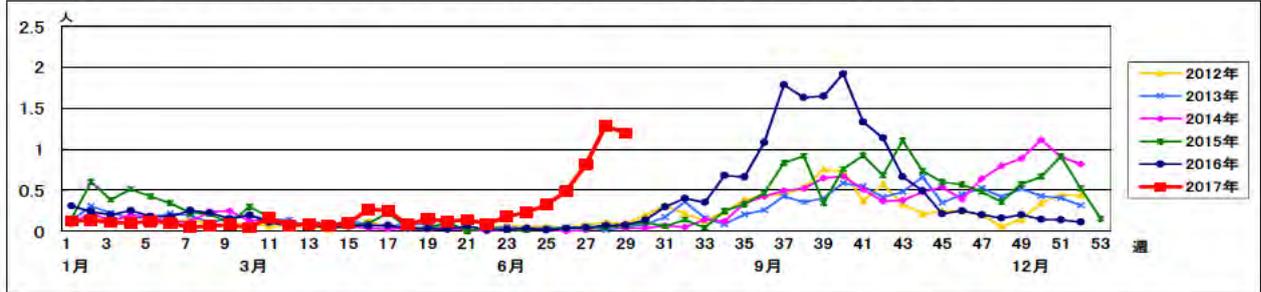
### ◇ 定点把握の対象

- 1 手足口病: 第26週で定点あたり2.45、第27週で4.13と増加し、第28週で6.20となり、警報発令基準値(5.00)を超えました。第29週は8.04と更に増加しています。

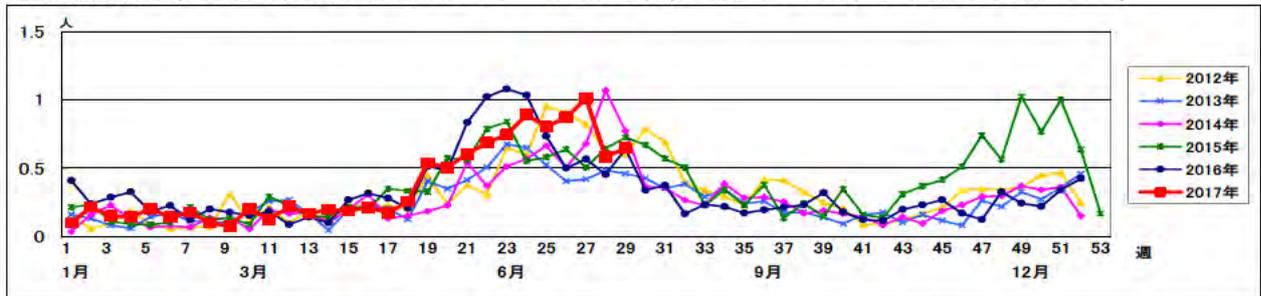
報告週対応表	
第26週	6月26日～7月 2日
第27週	7月 3日～7月 9日
第28週	7月10日～7月16日
第29週	7月17日～7月23日



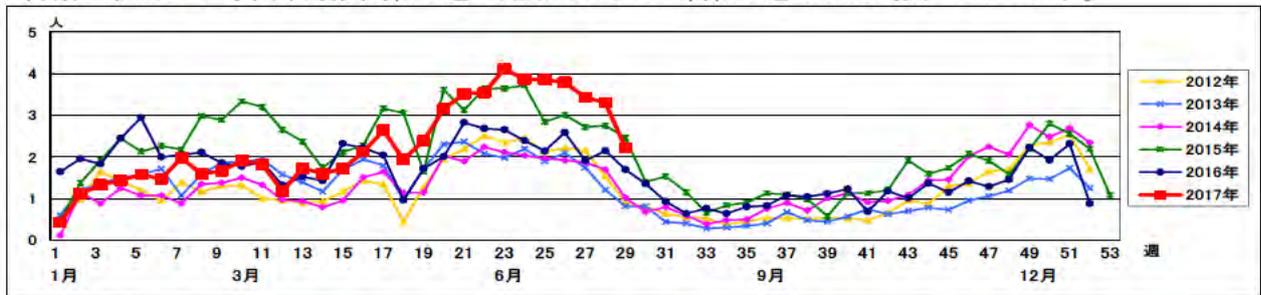
2 RSウイルス感染症:第28週で定点あたり1.29、第29週で1.19と急増しています。



3 咽頭結膜熱:第27週で定点あたり1.01をピークとして、第29週で0.65と、やや減少しています。



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第28週で定点あたり3.30、第29週で2.22と減少しています。



5 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:27件	女性:11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:1件	女性:4件	淋菌感染症	男性:8件	女性:1件

6 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.50	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.50	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

### ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

### 〈ウイルス検査〉

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、内科定点13件、眼科定点1件、基幹定点13件で、定点外医療機関からは4件でした。

8月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株12例と遺伝子35例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(7月)

分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ <sup>*1</sup>	RS感染症	アデノ感染症 <sup>*2</sup>	感染性胃腸炎	流行性耳下腺炎 <sup>*1</sup>	手足口病 <sup>*1</sup>	ヘルパンギーナ	その他
インフルエンザ AH1pdm09型			2							
インフルエンザ AH3型			2							
インフルエンザ A型			1							
インフルエンザ B型山形系統	1		2							
アデノ 5型					1					
アデノ 31型						1				
アデノ 型未同定	1			1						
ムンプス							1			
パラインフルエンザ 3型	5	3								1
パラインフルエンザ 4型		1								
ヒトメタニューモ	2	1								
RS	1			3						
ライノ		1								
コクサッキー A6型	1							6	3	
コクサッキー A10型	1								1	
コクサッキー A16型								1		1
パレコ 3型										2
合計	11	6	6	4	1	1	1	6	4	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

7月の「感染性胃腸炎」は基幹定点から*Shigella sonnei*が2件、腸管毒素原性大腸菌(O6:H-,ST)が1件、サルモネラ属菌はO4群が2件、O3,10群が1件、O7群が1件でした。定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2が5件、O157:H7,VT2が2件、O26:H11,VT1が6件、O103:H2,VT1が1件、O121,VT2が1件)が15件でした。

「その他の感染症」は小児科定点から3件、基幹定点から1件、定点以外の医療機関からが5件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(7月)

### 感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	7月			2017年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	1	7	15	5	30	31
菌種名						
赤痢菌		2			2	1
腸管出血性大腸菌			15		3	26
腸管毒素原性大腸菌		1			1	
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		4			10	3
不検出	1	0	0	5	9	1

### その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	7月			2017年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	3	1	5	25	77	122
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		9		
	T4			3		
	T6	1		4		
	T12	1		2		
	T B3264			3	1	
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌						4
G群溶血性レンサ球菌					2	2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						3
バンコマイシン耐性腸球菌						4
レジオネラ属菌						4
インフルエンザ菌			1	1		4
肺炎球菌		1			5	10
結核菌					20	66
百日咳菌					2	
緑膿菌					1	
その他			4		44	20
不検出	0	0	0	2	2	5

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】